

ピックアップ

最大級の客船寄港 MSCベリッシマ

全長315mと石巻港では過去最大級の大型客船「MSCベリッシマ」(総トン数17万1,598t)が8月3日、同港雲雀野中央ふ頭に初寄港しました。石巻市など2市2町ならびに観光協会などの関係機関で構成された石巻港大型客船誘致協議会は歓迎イベントを開き、約2,200人の乗船客に各市町の観光や物産をアピールしました。船内であった歓迎式典では、協議会会長の齋藤市長をはじめとした各市町の首長からロベルト・レオッタ船長ら4人に花束、各市町の特産品、初寄港を記念した雄勝石プレートを渡し、返礼品として記念の盾の贈呈がありました。同船は11月22日(水)も寄港する予定です。

図 観光課(内線3538)



大漁旗と 特産品で歓迎



わたしたちの

エスディーゼーズ SDGsアクション

Sustainable(サステナブル:持続可能な)
Development(ディベロップメント:開発)
Goals(ゴールズ:目標)

SDGs(持続可能な開発目標)は、地球上に住む全ての人が暮らしやすい社会を将来に引き継いでいくための世界共通の17の目標です。

「いしのみき圏域SDGsパートナー」制度は、SDGsの普及啓発やSDGsの達成に向けた取り組みを行う企業などを登録し、石巻市、東松島市および女川町の2市1町で連携し、SDGsを推進していくものです。

令和5年度は、SDGsの取り組みを行う企業・団体などを全6回に分けて、特集で紹介します!

図 SDGs移住定住推進課(内線4224)



メガトック

リサイクルパーツを積極的に活用する事で整備費用を抑え、環境保護の役目を果たします。



一般社団法人 Hito Reha

鹿妻地域で大人や子ども、障がい者や高齢者も日常から繋がる活動をしています。



株式会社 七十七銀行

南浜津波復興祈念公園にて、防災林の再生などのため、苗木を植樹しました。



第一生命保険株式会社 石巻営業オフィス

エコキャップ回収を現在まで675kg集め、子ども達へワクチンを届けています。



株式会社 千葉測量技研

地元中学生、高校生の職場体験の受入れ、人材育成の役割も担っています。



株式会社 山大

木を使った分だけ伐採跡地に植林をする取り組みをおこなっています。



SDGsの
取り組みを
ぜひ見てね!



SDGsパートナー
オリジナルロゴマーク



みんなのた場

スポット
ライト

牡鹿地区で活躍する
新人漁師

水産業の未来を築く



吉井大河さん(鮫浦・就業5年目)(左)と吉田深人さん(小淵・就業2年目)

本市では、水産業の担い手不足解消のため、平成27年度から「水産業担い手センター事業」として、漁業協同組合と連携し、就労マッチング、事業に賛同いただいた住家を活用したシェアハウス運営など、さまざまな事業を実施しており、業務を(社)フィッシャーマン・ジャパンに委託しています。

現在、牡鹿地区では2名の若者が親方漁師のもとで就業しています。

昨年春に就業した吉田深人さん(21歳・福島県出身)は、牡鹿地区のシェアハウスを拠点に、小淵浜の石森昌洋さんを親方として、ワカメ、牡蠣、カゴ漁に従事しています。休日も一緒に釣りに行くなど、牡鹿の海を満喫しているそうです。「ワカメの繁忙期に研修をさせてもらい、この人のもとで働きたいと思った。仕事では、できない

かっただけで済ませようにならなことが嬉しい。任せてもらえる仕事を増やしていきたい」と思いを語ります。

本事業により就業した若者は市全体で40名を越え、漁協の組合員資格(漁業権)を取得する若者も誕生しています。そのなかの一人、今年2月に宮城県漁協谷川支所の准組合員となったのが、吉井大河さん(28歳・群馬県出身)。大学の卒業研究で訪れた田代島で見かけた漁業の魅力を感じ、本市が開催した東京の就業フェアに参加。その時に出会った鮫浦の阿部誠二さんを親方として、今年で5年目となります。右腕としても大きく成長し、復興住宅への入居、漁協青年部や消防団への加入など、地域の一員としても根ざしています。「海への憧れを繋いでくれたのが石巻の事業。目下の目標は、自分の船を持ち、カゴ漁や刺網に挑戦すること。ここからがスタート」と話す彼は、中古の船や道具の情報も大募集中とのこと。

フィッシャーマン・ジャパンの担当者は、「受入漁師さんから、仕事に張り合いが出た、浜が明るくなった、という声をいただく度に、未来ある若者が地域に一人加わることの可能性は計り知れない」と感じているそうです。

水産業が主要産業である牡鹿地域にとって、新人漁師の就業は、担い手不足の解消のみならず、浜に活力を与え、水産業の未来を一緒に築く存在でもあるようです。

(文化財)
たんぽう

126

細い古道にも……

石巻市文化財保護委員 加藤 進



昨年度、金華山詣・金華山道が、文化庁より日本遺産「みちのくGOLD浪漫」として認定されました。金華山

山は、さまざまな史実から、一二〇年前頃より、多くの修験者や、海に関わる人々が訪れていたということ。当時、金華山へ向かうルートには、仙台から石巻(大街道、羽黒町)へ至り、渡波を経由して、牡鹿半島(県道石巻鮎川線)を鮎川浜まで幾つもの峠を越えて行くコースと、海路を利用するコース(渡波祝田浜、鮎川浜、山鳥)がありました。また金華山は、明治二(一八六九)年に、神仏分離令が発せられるまでは女人禁制であったため、女性の方々

は鮎川浜より小高い峠にある「二の鳥居」から拝んでいたと言われています。

鮎川浜、一の鳥居、山鳥(海路の発着地)に向かうコースは、六〇年近く住んでいる拙宅前の道路であったと改めて知りました。この道は、東日本大震災以前は、私の散歩コースの一つでした。道端にはスイセンやウメ、シヤガなどが咲いていて、何力所かには屋敷跡と思われる石垣がありました。現在は、灌木が生え、倒木も多く、大雨の度に細い谷状態となり、歩くのが難しくなってしまうそうです。

今後は動植物の生態も含めて、史実やさまざまな伝説に関心を持ち、関係の集まりにも足を運びたいと思います。

包括連携協定の取り組みを紹介します

市では、地域が抱える課題解決や、市民サービスの向上などを目的に、幅広い分野において、民間企業や大学、団体などと包括連携協定を締結しています。令和5年7月末時点で、26者と協定を締結し、今後も連携を広げていきます。ここでは、協定に基づく取り組みの一部を紹介します。

石巻専修大学・ソフトバンク株式会社 (3者協定)

■締結日

平成31年1月25日

ICTの活用をベースに、教育・スポーツの振興や地域産業の振興・支援などに取り組んでいます。

〈主な取組〉

- Pepperを用いたプログラミング教育の実施
- ICT部活支援として、石巻専修大学硬式野球部による中学生への野球指導
- 「いしのまき圏域SDGsシンポジウム」への参加、支援
- 専用車両を用いた出張型ケータイ教室の実施
- 「いしのまき魅力ツーリズム」などのイベント企画・実施



▲ソフトバンクが提供するICTツール「スマートコーチ」を利用した野球指導



▲スマートフォンリテラシー向上のための出張型ケータイ教室



▲Pepperを用いたプログラミング教育発表会



包括連携
協定一覧

図 政策企画課(内線4215)

石巻 親子で発見!ふるさとの魅力

夏休みに市政教室



公共施設などを見学する市政教室が7月22日、29日に行われました。本年度は小学生とその保護者を対象とした「夏休み親子ふるさと魅力発見隊」とし、東日本大震災からの復興が進んだ「わがまち、への関心を高めました。市長室では齋藤市長と観光PRキャラクターいしぴょんと一緒に記念撮影し、その後防災センターの役割を学びました。工事中の都市計画道路「七窪蛇田線」の橋を歩いて渡ったほか、震災遺構門脇小学校で命の大切さを伝えるガイドの話に耳を傾けました。



Topic of town まちの話題

河北 新保育所で初夏まつり

手作り屋台「いらっしやい」

本年度に開所した河北保育所で7月19~21日、子どもたちの「夏まつり」が行われ、最終日には紙で作ったお面や毛糸で表現した焼きそばなどの屋台が並びました。法被にはちまき姿の年長児が店主になりきって「いらっしやいませ!」と元気に声を張り上げ、エコバッグを手にした年下の子もたちは、目移りさせながら店を回っていました。職員が用意した本物のかき氷も味わい、楽しい夏の思い出になりました。



河南 子どもみこしで皆笑顔

鹿又・八幡神社例大祭

鹿又地区の八幡神社例大祭が7月16日に行われ、4年ぶりに「子どもみこし」が繰り広げられました。法被とはちまきを身にまとった約30人の子どもたちは、高さ約1m、重さ約30kgの小さなみこしと共に2kmの道のりを練り歩きました。新築の家や氏子の家など6カ所で家内安全や地域安寧を願い、沿道では住民が笑顔で子どもたちを見守っていました。



桃生 4年ぶりはねこフェスに向けて

保存会中心に練習に熱

「ものうふれあい祭2023はねこ踊りフェスティバルin桃生」が9月9日(土)、植立山公園を会場に行われます。コロナ禍を経て4年ぶりとなる今回の祭りは、伝統芸能であるはねこ踊りパレードのほか、ステージイベントや打ち上げ花火が予定されています。祭りに向け、寺崎はねこ踊り保存会が中心となり、毎週末の夜、桃生公民館で練習会が開かれています。子ども達は会員の熱心な指導を受け、踊りや太鼓の技術を高めています。



牡鹿 ボランティアも担ぎ手

大原地区祭りでもこし渡御

大原地区祭りが7月16日にあり、メイン行事のみこし渡御が4年ぶりに復活しました。大原浜は少子高齢化が顕著なため、東日本大震災後に縁をつむいだボランティアや東北大学の学生たちがみこしの担ぎ手として協力しました。高台にある三熊野神社で神事後、約30人の担ぎ手たちが「チョーサイ、チョーサイ」と威勢の良いかけ声と共に地域内を巡り、浜に活気を呼び込みました。



雄勝 キャンプ場で自然満喫

ふるさと・ありんこ塾

雄勝公民館が主催する「ふるさと・ありんこ塾」が7月26・27日、雄勝フォレストキャンプ場で開かれました。コロナ禍の中止を挟んで4年ぶりの開催となり、今年は雄勝小学校の1~6年生18人が参加。キャンプ場のコテージに1泊し、野外炊飯のカレー作りやキャンドルサービスなどを楽しみました。初日の午前中にはキャンプ場横を流れる沢で水遊びし、子どもたちは水を掛け合ったり、走り回ったりと大はしゃぎしていました。



北上 地元の海をみんなできれいに

白浜海岸クリーン作戦

地元への愛着と発展を目的とする奉仕体験活動「白浜海岸クリーン作戦」が、北上町十三浜の白浜海水浴場で行われました。北上中学校の生徒約40人が参加したこの活動は、毎年海開きの前に行われる恒例行事。生徒の皆さんは学年ごとに区画を分けて、堤防や砂浜に生えた雑草をカマなどで刈り取り、暑い中、こまめに休憩と水分補給しながら、海水浴場の美化に汗を流しました。

